

令和5年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** 県単

事業名	治水事業 [基幹河川改修事業 (国補)]	事業箇所	西八代都市川三郷町市川大門	地区名	芦川	事業主体	山梨県
-----	----------------------	------	---------------	-----	----	------	-----

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H25~R6	-	H25~R11
総事業費	2,030 百万円	-	2,460 百万円

④特記事項 (関連事業概要等)
・なし

(1) 事業の概要

①事業目的及び効果

芦川は、西八代都市川三郷町に位置し、上流は笛吹市芦川町上芦川、下流は富士川合流点までの流路延長L=23.6km、流域面積A=85.2km²の一級河川である。近年では平成23年9月の台風15号により、身延線JR橋下右岸が被災し近隣地区に避難勧告がなされた。

芦川橋直近は、水衝部で河道も狭く、流下能力が不足している区間であり、かつ、築堤河川となっており、左右岸に民地が連担していることから、破堤した場合、甚大な被害が生じる河川である。このため流下能力の向上を目的とした河道改修を実施し、洪水時の芦川の氾濫防止を図る必要がある。

- 主要目標 ○洪水被害の防止
改修目標流量に対する現況流下能力の割合：0.63≧0.4以下※
浸水被害又は水防活動の実績：有
想定氾濫区域内における災害発生時の影響：有 ※評定基準値
- 副次目標 ー
- 副次効果 ○被災時の被害波及の防止 (JR身延線、県道甲府市川三郷線：第2次緊急輸送道路)

②事業概要

河川改修 L=1,300m

③全体計画

		令和4年度まで	令和5年度 (評価実施年度)	令和6年度以降
現計画	工事内容	護岸工 橋梁工 測量、設計 用地取得	橋梁工	護岸工
	事業費	1,630 百万円	190 百万円	210 百万円
変更計画	工事内容	護岸工 橋梁工 測量、設計 用地取得	護岸工 橋梁工	護岸工 橋梁工
	事業費	1,693 百万円	207 百万円	560 百万円

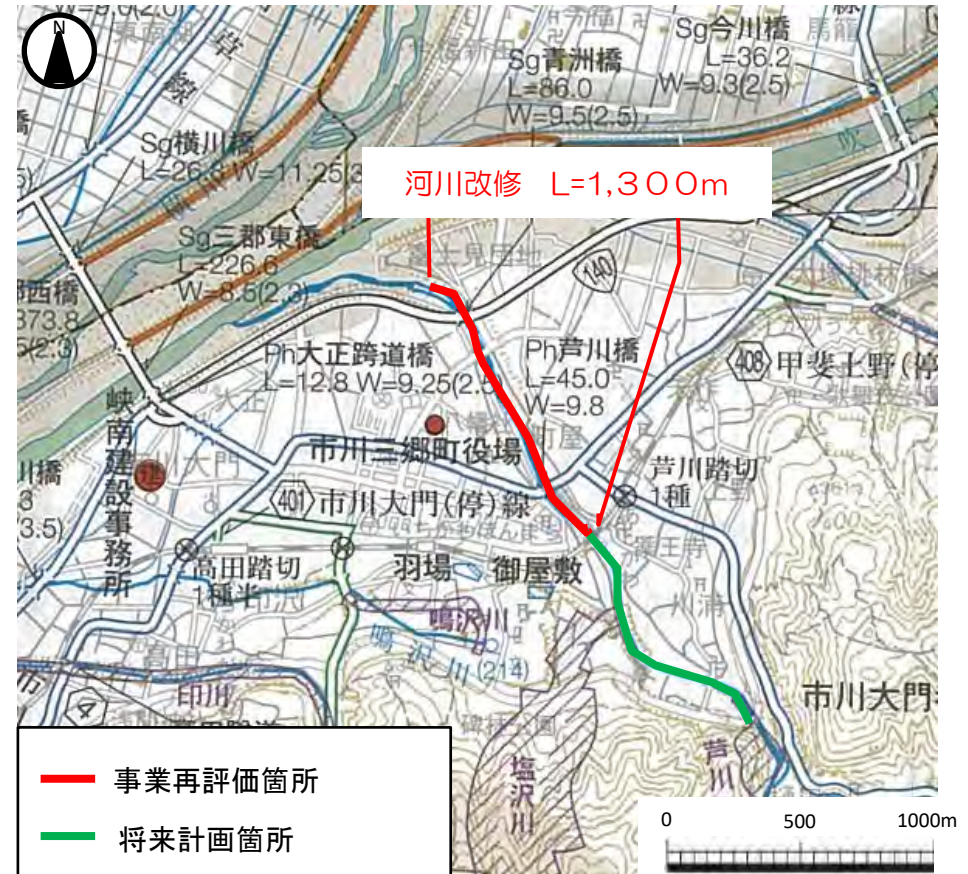
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

⑤これまでの評価状況 (平成24年度事前評価)

本事業は、左右岸に宅地が連担していることから、破堤等の災害により甚大な被害が生じる恐れがあり、集中豪雨などによる洪水や浸水への対策として早急な整備が必要であると評価でき、実施が妥当である。

なお、費用対効果が特に高い事業であり、整備効果の早期発現が必要であるため、一層の重点投資をするとともに時間管理の徹底に努められたい。

(2) 事業位置図等



2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

- ・なし

②産業・経済情勢

- ・なし

③国等の方針

- ・なし

④上位計画・関連事業計画等

- ・「山梨県総合計画」（令和3年改定）
- ・「山梨県強靱化計画」（令和2年3月改定）
- ・「山梨県社会資本整備重点計画（第4次）」（令和4年9月改定）
- ・「笛吹川下流圏域河川整備計画（変更）」（平成28年10月改定）

⑤自然環境条件等

- ・なし

⑥その他

- ・なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項 目		着手時点		変更計画時点	
総事業費		2,030	百万円	2,460	百万円
工 期		H25~R6		H25~R11	
評価基準年		H24		R5	
経 済 効 率 性	費用	17.2	億円	29.8	億円
	建設費	15.9	億円	27.4	億円
	維持管理費	1.3	億円	2.4	億円
	その他(億円		億円
	便益	761.5	億円	1,421.4	億円
	便益	760.5	億円	1,420.8	億円
	残存価値	1.0	億円	0.6	億円
			億円		億円
			億円		億円
		B/C	44.3		47.7

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

（3）これまでの計画変更等の概要

- ・なし

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率
 ・別表のとおり。
 ・令和5年度進捗率(現計画) 89.7%→(実績) 93.3%
 →(変更計画) 77.2%

②進捗率実績が計画と相違している理由
 ・河川改修に伴い架け替えが必要な芦川橋について、当初は仮橋による迂回路を設置したうえで架け替える予定であった。
 実施に向け、道路管理者と協議・検討した結果、仮橋による通行の迂回が困難なうえ、既存橋を避けた道路線形による計画も不可能なことから、既存橋の位置を変えることなく、常時の通行を確保した施工が必要となった。
 これを受け施工方法等について検討した結果、既存橋の下流側車線を通しながら新設橋の上流側を施工し、その後、完成する上流側の車線を通しながら新設橋の下流側を施工する方針となった。
 これにより、河川水の切り回しや工事用道路の設置・撤去回数を増やす必要等が生じるとともに、事業期間の延長が必要となった。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
橋梁等の仮設工	430百万円 増	芦川橋の架け替えについて、橋の上流側を施工した後、下流側を施工する方針となった。これに伴い、河川水の切り回しや工事用道路等の増工や、仮設歩道の追加、交通誘導員等の増が必要となった。
合計	430百万円	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

・芦川橋においては、当初は仮橋により通行を迂回し、3カ年で架け替える予定であった。道路管理者と協議した結果、仮橋による迂回等が不可能となった。現地の制約条件等を考慮し、施工方法を検討した結果、既存橋の下流側車線を通しながら新設橋の上流側を施工した後、完成する上流側の車線を通しながら新設橋の下流側を施工する方針となり、橋梁の架け替えに7カ年を要することとなった。さらに、工事用進入路の確保等について関係機関との協議・調整等が必要となったことから、事業期間を5年延長する必要がある、令和11年の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

・なし

(5) 環境負荷等への配慮

・捨石や埋戻等は現地材を使用し、植生については在来種が生息するよう環境に配慮した河川改修を行う。

(6) コスト縮減の可能性

・なし

(7) 代替案立案の可能性

・なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他()

(理由)
 ・河川の氾濫による災害を防止するため、事業費及び事業期間を延長し、令和11年度の完了を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位：%

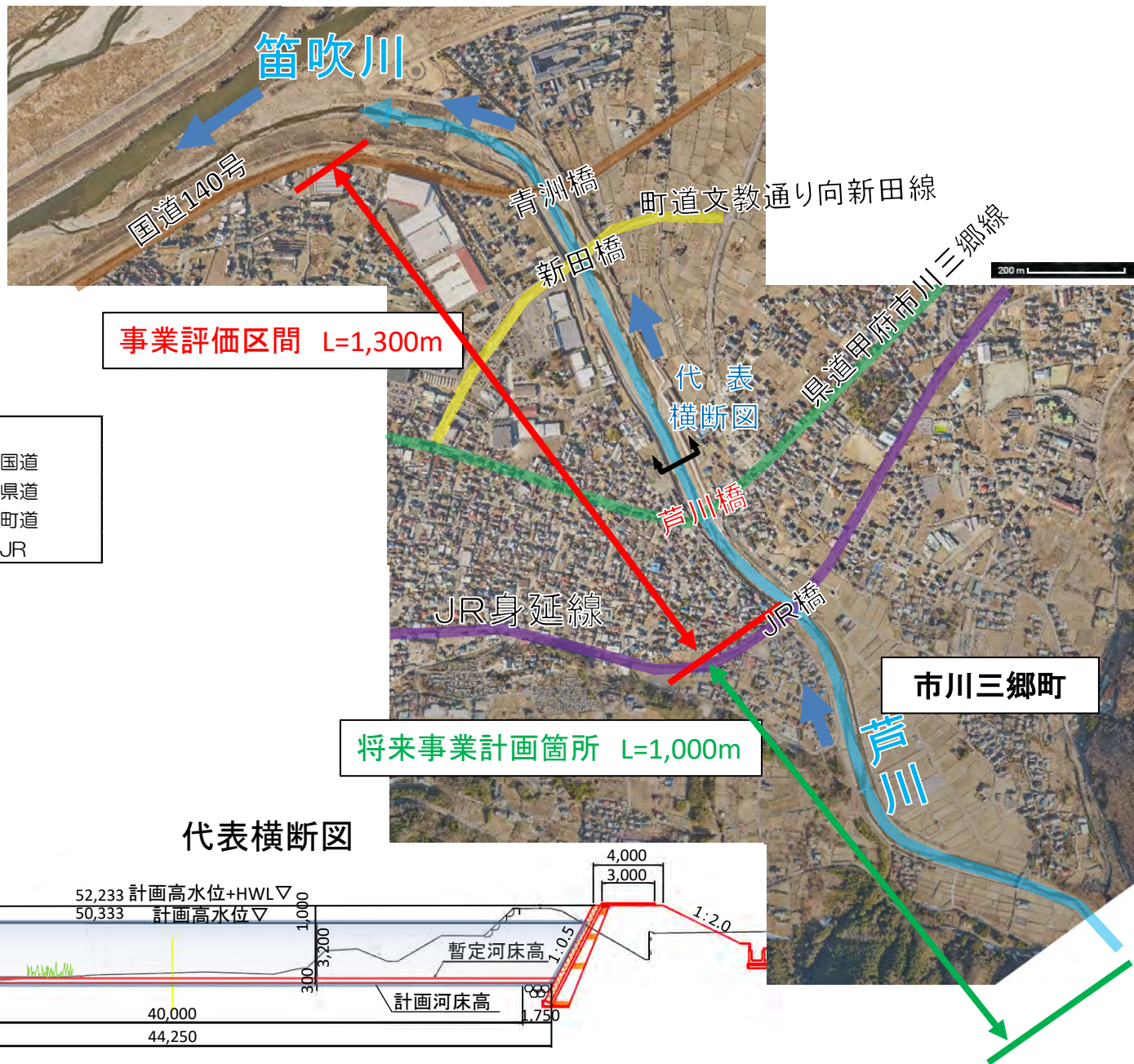
	年度	*H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	*R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
現	計画	2.5	7.4	12.3	21.2	32.5	43.3	48.3	57.6	71.4	80.3	89.7	100.0					
	実績	3.5	6.0	9.8	12.4	38.0	39.5	48.5	56.7	69.6	83.4	93.3						
変更計画												77.2	85.4	89.4	93.5	95.9	98	100

*事業着手年度又は評価年度

*R5年度の実績は見込み



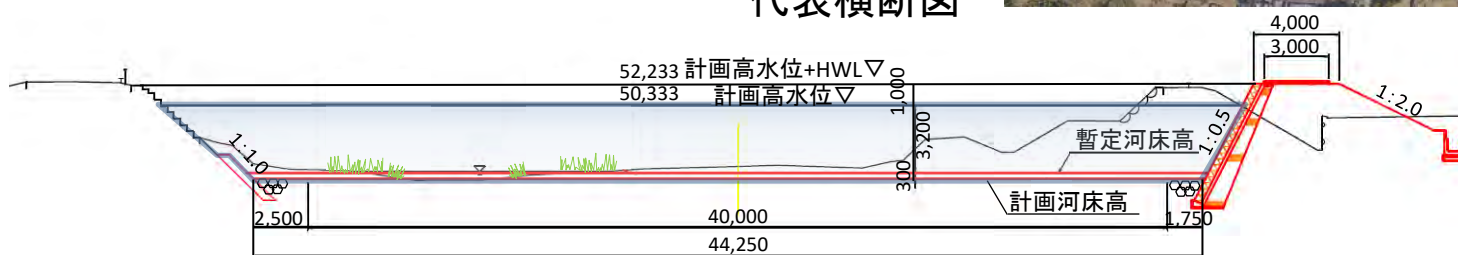
航空写真



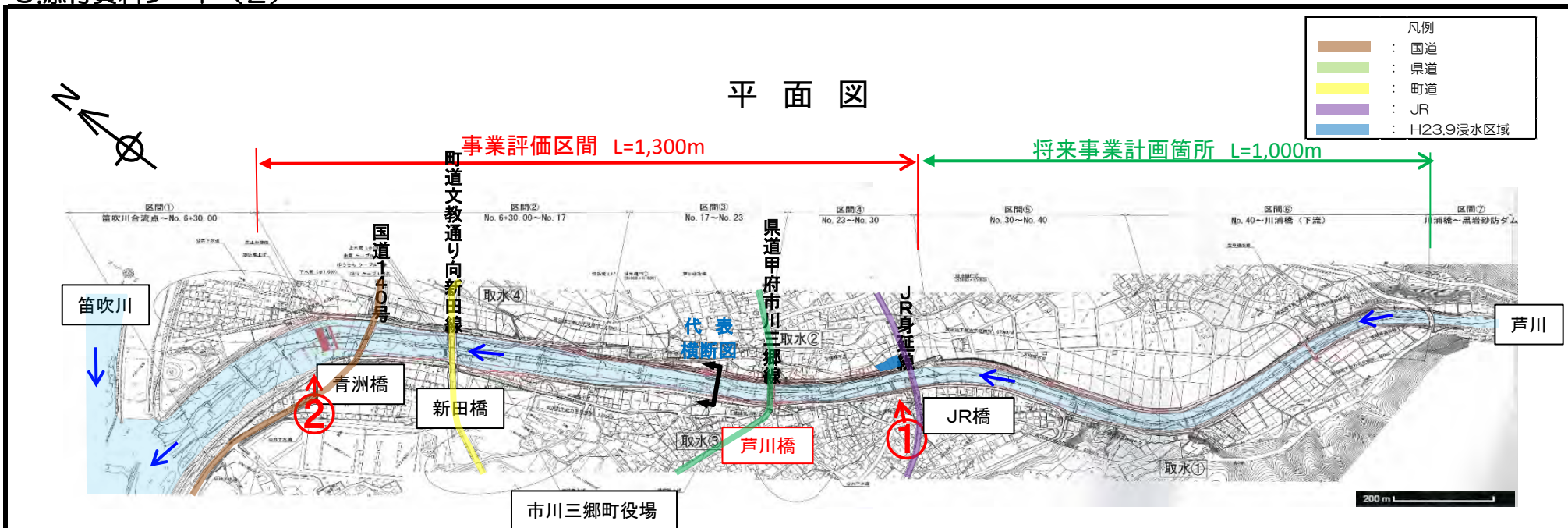
凡例

	: 国道
	: 県道
	: 町道
	: JR

代表横断図



3. 添付資料シート (2)



①平成23年9月 台風15号被災箇所



②平成23年9月 台風15号出水状況 青洲橋下流



3. 添付資料シート（4）

- ・以下は、「芦川橋」の架け替え計画の概略工程を示している。
- ・当初は河川水の切り回しを2回想定していたが、以下のように7回必要となった。

橋梁
着手前

R3.6



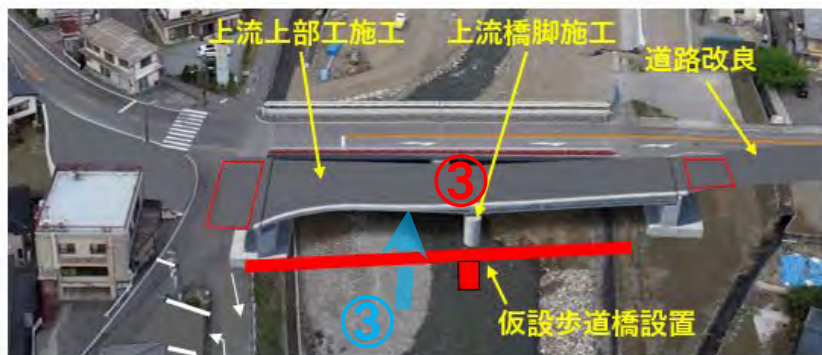
①

R4.6



②

R5.6



①～⑦：施工箇所

③

R6.6



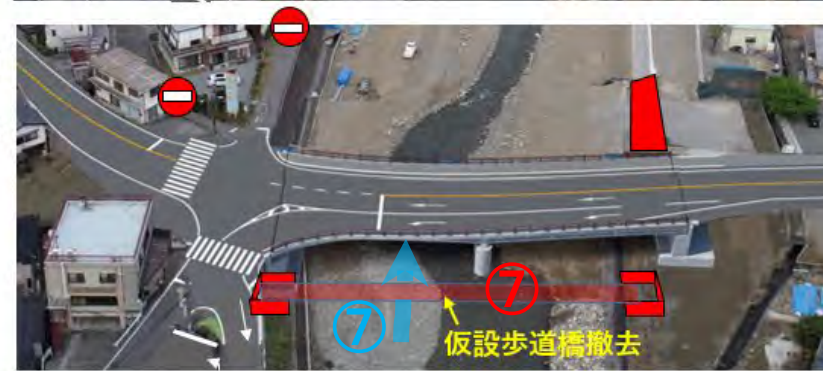
④

R7.6



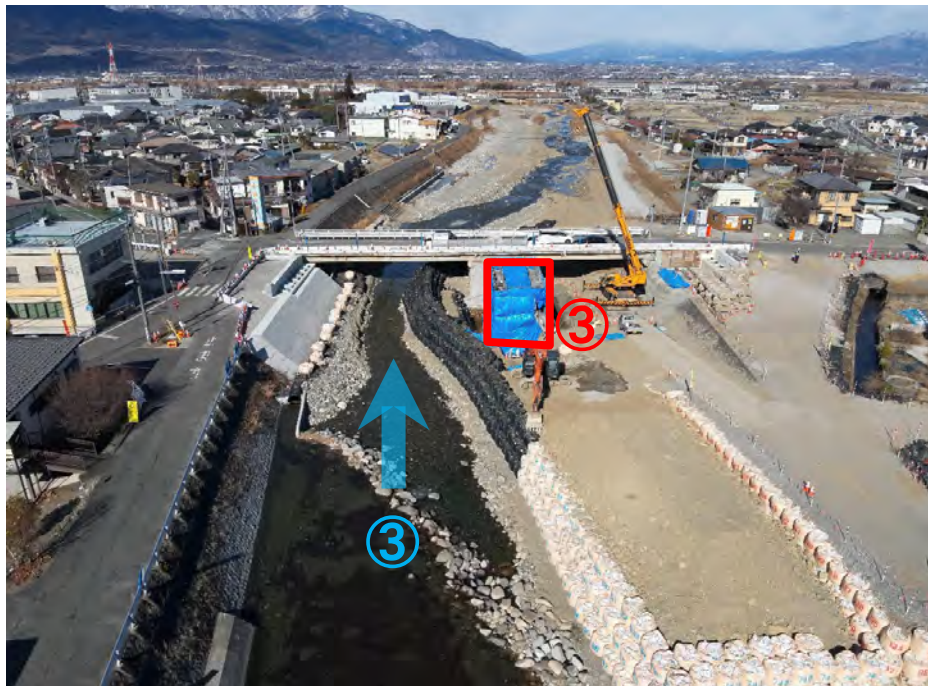
⑤

R8.6



①～⑦：河川水の切り回し

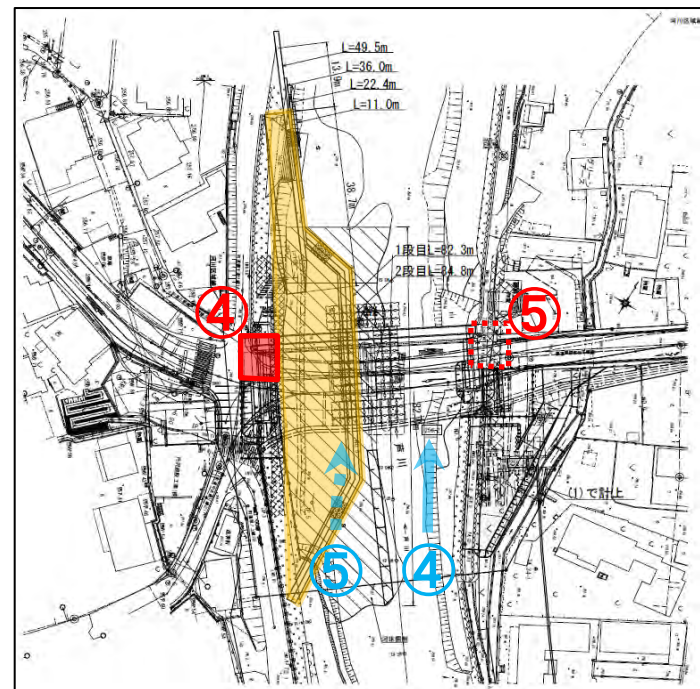
3. 添付資料シート (5)



▲上流側の橋脚・上部工施工時（前ページの工程②）
における大型土のう等による仮設工状況写真

道路管理者との協議により、常時通行できる状態を確保しながらの橋梁架け替えとなった。本写真は、既存橋梁の下流側を存置し車両等を通しながら、架け替え橋梁の上流側である橋脚を施工している状況である。上流側の橋脚施工や上部工架設のために、写真に示す作業ヤードが広範囲に必要である。

なお、上流側の施工が完了し、完了部分の通行が可能となれば、それまで通行していた下流側既存橋梁や歩道橋を撤去し、架け替え橋梁の下流側を施工することになるが、その際には、下流側の橋台、橋脚、上部工の施工のために、橋梁下流側に大型土のうや作業ヤード等の仮設工が広範囲に必要となる。



▲左岸における下流側の橋台施工時（前ページの工程③）
における大型土のう等による仮設工計画

上の図は、令和5年度秋からの施工を予定している、左岸における下流側の橋台④施工時の河川水の切り回し④及び作業ヤードの計画である。左岸の橋台④が完了後、右岸の下流側の橋台⑤の施工に移るが、その際において、河川水を左岸側に切り回す⑤とともに、右岸側に同規模の作業ヤード等の仮設工が必要となる。

上述したように、常時通行できる状態を確保しながらの施工となったことにより、左右岸の橋台を上流側、下流側と分けて施工する必要が生じた。これにより、当初は本計画図と同規模の仮設工を左岸側と右岸側の2回の設置・撤去と想定したところが、変更により、左岸側の上下流、右岸側の上下流と4回の設置・撤去が必要となり、併せて施工期間が延長となったこと等により、合計7回の河川水の切り回しが必要となった。

さらに、通行車両等の安全確保のため、交通誘導員の配置を増やす必要が生じた。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H25	70,941	測量、地質調査、設計	2.9%
H26	50,104	護岸工	4.9%
H27	77,140	測量、設計、護岸工	8.1%
H28	52,860	設計、護岸工	10.2%
H29	520,047	設計、用地測量調査、用地補償	31.3%
H30	31,583	設計、用地測量調査、用地補償、護岸工	32.6%
R1	181,417	用地補償、護岸工	40.0%
R2	167,000	護岸工	46.8%
R3	262,000	用地補償、橋梁工、護岸工	57.4%
R4	280,000	用地補償、橋梁工、護岸工	68.8%
R5	207,000	橋梁工、護岸工	77.2%
R6	200,000	橋梁工、護岸工	85.4%
R7	100,000	橋梁工、護岸工	89.4%
R8	100,000	橋梁工、護岸工	93.5%
R9	60,000	護岸工、樋門工	95.9%
R10	50,000	護岸工	98.0%
R11	50,000	護岸工	100.0%
合計	2,460,000		